

Vol. 5 文化交流の粹! 『王 曉東 中国琵琶の世界』

王 敏が語る日中文化交流の集い

紀尾井小ホール

July 7, 2006

来日して15年(初舞台25周年)を迎えた王 曉東(ワン・シャオトン)さんの記念リサイタル。

曉東さんの演奏は仕事で一緒に何度も拝聴していますが、今回は編曲・アレンジを変えパーカッションやギターが入る楽器編成も従来と異なり、新たな発見をする事が出来た。全体的にモダンな印象があり、構成には曉東さんらしい意欲的な試みが随所にみられた。

サブタイトルに 王 敏(ワン・ミン)が語る日中文化交流の集い とあるように曉東さんの記念リサイタルには文化交流(中日友好)への強い願いが込められていた。

コンサートの司会進行を勤めたのは、日中比較研究・澤賢治研究等と幅広く日本と中国の相互理解に尽くされている王 敏さん。彼女の穏やかな人柄とお話でコンサートが意義深いものになった。

敏さんの数ある著作には日本と中国の文化の違いから来る誤解や軋轢を解くキーワードがあります。『中国人の愛国心』(PHP新書)には愛国心の意味が中国人と日本人ではニュアンスが違うことを様々な例にとり提示してありました。文化の類似性と相違点を探る視点を持つことの大切さ、民間の文化交流が相互理解につながる事を示唆されて興味深かった。

コンサートは日本の唱歌<故郷;ふるさと>(作曲:岡野貞一)の演奏で観客の温かい拍手に包まれ終了。中国のクラシック演奏家から指摘される事に日本の唱歌、童謡の歌詞、旋律の美しさがあります。これなども、外国人によって再評価される日本文化の一例かもしれません。

敏さんが、「詩人・宮澤賢治が遥かシルクロードをイメージしていた」と語った時は、宮澤賢治の詩の朗読を中国語と日本語でやってみたらどんな感じになるだろうか?それに中国琵琶などのシルクロードにルーツを持つ楽器での演奏を加え、目の前に「銀河鉄道」が浮かび上がる情景など想像が広がります。

公演当日は七夕。“七夕節”も中国から伝わり日本人にも馴染み深い民間行事として定着、七夕に願う心は一つ。ホールを出て、空を見上げると生憎の曇り空ではあったが清しい気分で会場を後にしました。謝辞!王 曉東先生並王 敏先生他御出演之諸先生!

王 曉東さん王 敏さんと二人の「王」さんのことを書いたのでここでは区別するため曉東、敏さんと表記しました。